

【 西 原 村 】

校務D X計画

1 趣旨

令和5年3月8日付・文部科学省発出の「GIGAスクール構想の下での校務DXについて」により、令和の日本型学校教育を支える基盤としての校務DXを実現するために必要な今後取り組むべき施策が示されたところである。

本村においても以上を踏まえ、校務DXによる学校現場の働き方改革をはじめとしたさらなる教育の情報化を行っていく必要がある。

2 西原村における現状と課題

現在は、小中学校でのデータ入力及び確認に係る時間削減に向けて、教育委員会及び小中学校間でのデータ連携を進めているところであるが、校務D Xの更なる推進には、校務系・学習系ネットワークの統合や校務支援システムのクラウド化、データ連携の促進などが必要であり、計画的・組織的に進めていかねばなりません。

国の方向性や現状を的確に把握し、クラウド上のデータやサービスの活用を前提とした新たな教育情報セキュリティポリシーの策定が求められます。また、学校では児童生徒に関する多様な情報が日常的に活用されていることを踏まえ、児童生徒の存在や情報の多様性・多目的性を十分考慮した情報セキュリティ対策を講じることが重要であるため、まずは教育現場の実情に合った現実的で実効性のある教育情報セキュリティポリシーの整備を進める必要があります。

3 校務D Xに向けた取組

(1) 業務を支援するツールを活用した効率化の推進

教職員の業務負担を早急に軽減するため、まずは既存の業務支援システムの活用方法を研究、実践します。また、オンライン会議ツールを活用し、児童生徒とのリアルタイムでの連絡や学習状況の把握・評価の充実を図るとともに、教職員間の情報共有を促進し、校務の効率化をさらに推進していきます。

(2) 次世代型校務システムの導入

次世代型校務システムの導入を検討し、校務系・学習系ネットワークの統合を目指します。

(3) 教育情報セキュリティポリシーの策定

クラウド活用を前提に、それに適したセキュリティレベルを確保しながら、データ利活用や個別最適な学びなど、新たな時代にふさわしい教育DXの基盤を構築するため、教育現場の現状を踏まえ、「教育情報セキュリティポリシー」を策定します。

(4) FAXの利用・押印の見直し

クラウドツールを導入してFAXのやり取りや押印作業の見直しを行い、ペーパーレス化を検討します。

(5) 不必要な手入力作業の一掃

村教委から各学校へデータで名簿情報を提供することにより、校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の縮減を目指します。

(6) クラウドツールの利活用

クラウドサービスで職員会議資料を共有し、ペーパーレス化と事前情報共有による会議の質向上を図ります。